

一五、自由労働者保護法制定に關する決議案（東京合同提出） 可決

本大會は政府をして自由労働者の保護に關する法律を制定せしめ、現在の悲惨なる状態を革正せんが爲め、他団体と協力して其の法律の獲得運動を爲すことを決議す。

一六、労働會議調停法撤廃運動に關する件（大阪電氣提出） 修正可決

「悪法撤廃」への修正あり、次記決議文を可決す。

決議文

今第五十一帝議會を通過せる労働會議調停法案は労働條件の維持改善に對する吾等の行動を弾壓し、只管資本家階級の利益を擁護する所の偏頗極悪法案あるが故に本大會は即時撤廃を期す。

右決議す

「実行方法」

一、各地方に本評議會を加盟組合は其地方に於ける各労働団体と共同して凡ゆる機會に積極的演説會に又は（ビラ）撤布を行ふ。
二、メーデー等示威運動に標語とする。
三、各誌會研究會等に於て常に此問題を取扱ひ一般組合員に知らしめ、四、議會に於て本法案に賛成した代議士に對し其地方に於ける組合員凡ゆる方法に依りて抗議す。

一七、労働農民黨に關する決議案（本部提出） 可決

左記決議案の内容を説明したる後質問討論なく満場一致採案通過可決

決議案

労働農民黨の成立は日本の無産階級運動の歴史に一新時期の開始を告げ知らせるものである。労働農民黨が数多の難關を突破し無産階級の救済を分割しやるとする文配級の有ゆる陰謀と掛策とに打勝つて、無産階級一切の要素を包容する第一の全階級の政黨として生れたことは、日本の組織せられた農民と労働者が協同の戦線に立たんとする要求が如何に力強いものであるかを示したものである。第一無産政黨の成立は、日本の無産階級がその政治關係の第一歩に於て、光輝ある勝利を収めたことを意味するものである。

無産階級政治勢力の抬頭に對してここの新興勢力が当然議會に侵入する普通選挙の實施を前にしてブルジョア階級の極度の恐怖とこれに對する彼等の對策とは、一方に於ては第五十及び五十一議會に於ける数多の反無産階級の法律の制定と別方面に於ては現任の地方には既成ブルジョア政黨の動搖とその急速な分解整理の作用とを以て現任の地方には既成ブルジョア政黨の資本と地主との利害によつて相争ひてゐることに拘らざる無産階級に對する反動政策の遂行に於ては、彼等は完全一致の協力とを以て示してゐる。一切の帝主義的資本主義的労働勢力は、今や無産階級に對する戦線に動員され、其の結核は着々として進んでゐるばかりでなく、無産階級自体の間に對しては、これを支持する反動的勢力を排除しつゝある。無産階級自体の間に對しては、吾等の任務とするところは、正當なる利益を達成することである。此の時、吾等の努力によつてその正當なる利益を達成することである。